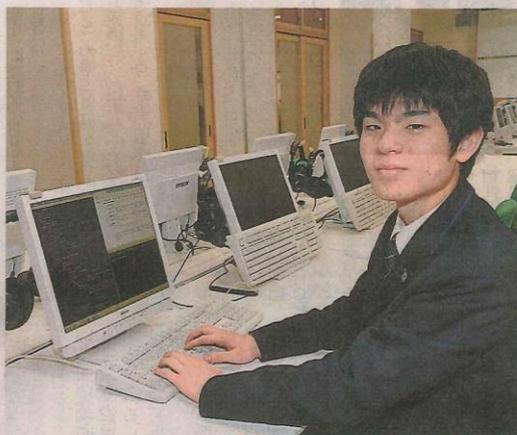


日本情報五輪本選へ

松本秀峰中等教育学校4年の水橋大瑠さん



パソコンの前に座る水橋さん。毎日1時間ほど練習し、本選に備える

松本市の松本秀峰中等教育学校の水橋大瑠さん(4年)は高校1年、安曇野市穂高が13、14日、茨城県つくば市で開く「第15回日本情報オリンピック(JOI)」(NPO法人情報オリンピック日本委員会主催)の本選に県内から唯一出場する。灘高校(兵庫県)、開成高校(東京都)など強豪校の出場者7人と戦い、本選を勝ち抜いた春合宿参加者の中から、夏にロシアで開く第28回国際情報オリンピック代表が決まる。

(八代けい子)

国際情報オリンピック(IOI) 高校生を対象に、与えられた課題を効率良く解くプログラミング能力を競う国際大会。1989年に始まり、毎年各国持ち回りで開催され、約80カ国・地域が参加する。

合宿参加目標に 強豪校生と競う

水橋さんは12月13日、オンラインの予選に出場。問題を解決する手順や方法(アルゴリズム)をプログラミングする課題が6問(600点満点)出題され、Aランク(360点以上)の420点を取得。本選への切符を手にした。

水橋さんが、パソコンに触れたのは4歳の時。小学校高学年では授業も受けていたが、プログラミングを始めたのは中学1年の時だった。

その後、しばらく遠ざかっていたが、2年生の時「本を見つけてやってみようかな」と思ったという。ほぼ独学で、「本だけでは、なかなか情報がなかった。ネットで質問することもあったが、期待通りの答えを得られず大変だった」と振り返る。

日本情報オリンピック出場は、3回目。昨年は、あと一歩というところで、本選出場を逃したという。「去年悔しい思いをしただけに、すこくうれしかった。

プログラミングの面白さは「何もない状態から設計できること。ゼロから作り、期待通りに動いてくれるところが面白い」。現在も「えさや水やり、土壌の水素イオン指数(pH)、日照の調整などを、センサーを制御することで行い、植物や魚を手をかけずに育てるプログラミングを制作中だ。

プログラマーやエンジニアは、将来の選択肢の一つだが、まだ進路は決めていない。「いろいろな可能性を試してみたい」と水橋さん。「日本情報オリンピックでは、合宿に残ることが目標」と力を込める。